公開シンポジウム
「世界の高大接続の現状と課題」

指定討論：各報告を受けて

中村高康（東京大学大学院教育学研究科）
2022.3.12(土）16:05-16:20

「教育」を通じた接続について

- 4名のご報告をうかがってあらためて思うのは、高大接続はもっと「教育」の側面を取り出して広げていくべきテーマだということ。

  山田報告～日本の初年次教育

  松浦報告～アメリカのリベラルアーツ教育

  渡邉報告～フランスのディセルタシオンに向けた小論文教育

  南部報告～中国の素質教育

➡いずれも具体的な教育の理念や方法・内容と不可分の議論であり、入試制度を見るだけでは完結しない。

「教育」を通じた接続について

- しかしこれらの「教育接続」は、うまく中等教育と大学をつないでいるケースばかりでもないはず。なぜなら…

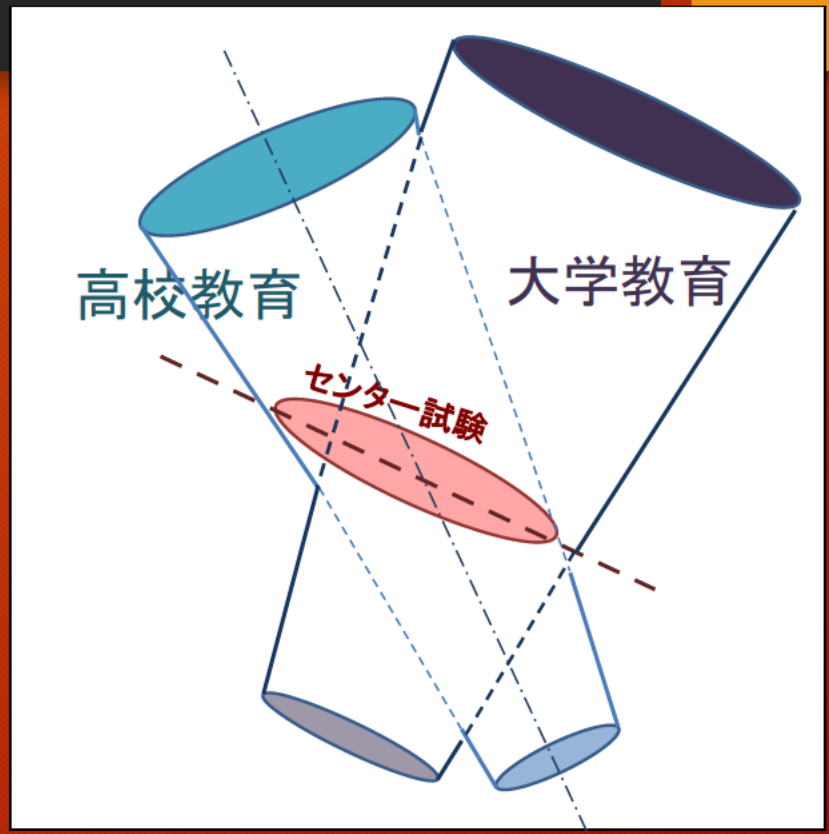
1）普通教育と専門教育（本質的困難）
2）教育拡大による変化（時代的困難）
3）教育・選抜構造の社会間の差異（社会的困難）

討論①　高大は一貫した教育方針で貫徹できるのか（すべきなのか）

1）普通教育と専門教育（本質的困難）

　目的の違う2つの教育のつなぎ目をどうつなぐかが高大接続の課題

　➡それぞれの教育を簡単に一貫させたり網羅したりできるものではないのでは？



荒井克弘(2020)「高大接続改革の現在」中村高康編（2020）『大学入試がわかる本』岩波書店

討論①　高大は一貫した教育方針で貫徹できるのか（すべきなのか）

- 日本の高大接続改革をみると、「学力の3要素」での一気通貫的な方針はやや強引で矛盾があるようにみえる（実際に批判も多い）。
- しかし、南部報告によれば、中国では「素質教育」がすべての教育段階を貫く原則だという。実際に、日本の高大接続改革のように、入試を梃にして全体を一貫させようとしているようにもみえる。しかし、そこはうまくいっているのか？矛盾はないのか？
- 渡邉報告でも、作文教育はバカロレアのディセルタシオンをゴールとして初等中等段階から徹底していて一貫性があるように見える。そこに齟齬はないのだろうか。例えば、自然科学的な分野への接続において、論理的思考は数学的思考と連続性をもっているとみなされるのだろうか。
- その点でいえば、松浦報告のアメリカのケースはどうだろうか。高大の連続性は低いイメージ。アメリカは専門教育の前提としてリベラルエデュケーションももってくる。そこと専門教育とのつなぎはどのように解決しているのだろうか。

討論②　教育拡大が生み出す課題は何か

2）教育拡大による変化（時代的困難）

・大学進学率の上昇…

➡従来とは異なる層が入学することになるため、従来とは異なるシステムを用意する必要が生じがち

討論②　教育拡大が生み出す課題は何か

- 日本の場合は、入試制度でいえば、多様化入試の浸透（マス選抜）。大学教育でいえば、リメディアル教育、初年次教育、入学前教育など。
- 今回の報告でも、どの社会いずれも大学大衆化のインパクトがみられる。
- 山田報告では、初年次教育はさらに進化し、広がりも見せているように見える。しかし、初年次教育は、リメディアル教育のように低学力層や高校の未履修層をカバーするような内容ばかりでもないだろう。これらは高大接続とどのような関係にあるとみるべきだろうか。また、高校教育課程はどの程度意識化されているのだろうか。
- アメリカ、フランス、中国では、この大衆化問題にどのように対処したとみなすべきだろうか。

討論③　各社会の教育システムの特質との関連

3）教育・選抜構造の社会間の差異（社会的困難）

- 大学は何を教えるものとして制度化されているか（専門教育、職業的レリバンス、教養教育…）
- 高校はどこまで教えることになっているか（進学準備教育か、完成教育かの程度はどうなっているか）
- 競争試験か資格試験か
- 選抜機会の分散の度合い

➡高大接続において求められる規範には社会ごとに大きな違いが生じうる

討論③　各社会の教育システムの特質との関連

- 「前」専門教育の違いについて…日本とアメリカの対比でいえば、リベラルエデュケーションが大学の中に位置づくアメリカと、その理念が薄められた形で外挿され定着した日本の教養教育、そしてその一種としての初年次教育等の「前」専門教育は、中等教育や大学の制度的構造（内容や多様性）にも規定される。接続の理想形はアメリカと日本でかなり異なるのではないか。（松浦報告、山田報告、吉田2013(『大学と教養教育』岩波書店)、などから）
- 選抜構造の違いについて…フランスと中国の対比でいえば、フランスは早い段階から留年が多くあり、大学においてもそれが目立つという。バカロレアも全員が合格するわけではない。グランゼコールという別建てのエリート養成機関も並置。選抜はゆるやかに様々な段階で生じている。中国は、大学入試が決定的な分岐とみなされ、そこから波及する形で競争が下級段階に。大学入学段階で求められる公平性の規範や諸前提も、この選抜構造の違いに多分に起因しているのではないか。（渡邉報告、南部報告から）

討論　+α　　今後の展望

- 松浦報告の中でICT活用が21世紀のキーワードしてあげられていたが、高大接続の局面でICTはどのようなインパクトを持ちうるか、あるいは現に持っているのか。初年次教育ではどうなのか。

- 今後育成すべき能力の方向性が、グローバルに収斂しているようにも見えたり（キー・コンピテンシーなど）、東アジアでの共通性（多面的能力）があったりする一方で、フランスの「論理的思考力」には固有の方向性もあるように見える。この点をどう考えたらいいのか。